

ニュース 玉手箱



ながーい自然薯 生長願う

町 内3つの小学校の6年生の児童が、5月28日（金）に町特産品の自然薯の植え付けを体験しました。

これは、子どもたちに自然薯の栽培を通して郷土に対する愛着を深めてもらうことなどを目的に、町などで構成する大石田町地域学校協働本部が企画し、大石田町新作物開発研究会（海藤明会長）の協力で実施されたものです。

苗植え体験は南小脇の畑で行われ、児童50人が参加しました。児童たちは、研究会のメンバーに指導を受けながら、植え付けしていました。



児童がギフチョウ観察会

町 内3つの小学校の4年生の児童を対象に、5月18日（火）にギフチョウ観察会が川前地区で開催されました。

これは、子どもたちに蝶の観察を通して、生命尊重や環境保全の精神を養ってもらおうと、町などで構成する大石田町地域学校協働本部が企画したものです。

当日は、児童たち41人が参加し、講師の町立歴史民俗資料館の大谷俊継学芸員から指導を受け、ヒメギフチョウの卵を観察しました。

参加した石川心羽(ここ)さんは、「卵を何個産むのかや、蝶に成長してからの餌が何か知れてよかったです。」と話していました。



とんとむがすを動画に

大 石田とんとむがすの会（富樫恭子会長）さんでは、大石田の昔話をもっと身近に楽しんでもらおうと、地域おこし協力隊の大野達也隊員の協力で朗読動画の撮影を行っています。会では例年、児童に大石田の昔話に親しんでもらおうと、各小学校で朗読会を開催していますが、コロナ禍で活動が制限される中で、子どもたちに何とか朗読を聞かせられないか検討していました。

動画撮影は7月中旬まで行われ、編集作業の後、DVDにまとめられる予定です。

富樫会長は、「昔話は本来、朗読によって人から人へ語り継がれるものです。完成した朗読動画をたくさんの人に見てもらい、大石田の昔話に触れてほしいです。」と話していました。



児童が田植え体験

町 内2つの小学校の5年生の児童が手植えによる田植えを体験しました。

大石田北小では5月24日（月）にJAみちのく村山青年部（齋藤天徳部長）の協力で、6月3日（木）には大石田南小で横山地域農地・水・環境保全組織田沢部会（森秀雄会長）の協力で、それぞれ手植えによる田植えを行いました。

児童たちは、初めて入る田んぼの感触に戸惑いながら、泥だらけになって苗を植えていました。各小学校では秋に稲刈りを行い、収穫した米を味わうことにしています。



大石田北小学校



大石田南小学校

町へフェイスシールド寄贈

株 株式会社最上世紀（中西愛子代表）さんが、6月4日（金）に役場を訪れ、同社が製造するフェイスシールド20個を寄贈しました。

これは、同社の「コロナ禍で様々な活動が制限される中で、少しでも安心して演奏出来るように」との思いから実施されたものです。

中西代表は、「大石田中の吹奏楽部に活用していただき、部活を頑張ってもらいたいです」と話していました。

寄贈されたフェイスシールドは、大石田中吹奏楽部で今後活用させていただきます。

大変ありがとうございました。



どろんこ！田植え体験

大 石田保育園の園児9人が、5月28日（木）に(株)今野商店（今野寿洋代表）の協力で、手植えによる田植えを体験しました。

この田植え体験は、今年で2年目になり、園児たちは初めて入る田んぼの感触にはしゃぎながら、泥だらけになって苗を植えていました。保育園では秋の稲刈り後、収穫した米を味わうことにしています。

